健康ウォッチング

東陽病院 副院長 伊藤 文憲

肝細胞癌について

横芝町の皆さん今日は。今回は肝臓のガンについてお話します。肝臓の悪性腫瘍の95％は肝細胞癌であり、ウイルス感染のため慢性肝障害を持つ人に発生します。小数例では肝組織の中の胆管から生じる胆管細胞癌があります。黄疸や腹水などで発見され、進行していることが多く治療が困難です。稀には健診や他の原因で検査を受けて肝臓内の異常な影として発見され外科切除が可能な場合もあります。

さて、肝細胞癌は年間死亡者数3万人を超え、癌死亡率では肺癌・胃癌に次ぐ第3位を占めています。肝細胞癌は90％以上がB型やC型の慢性肝疾患から発生するという他の癌に比べて特徴があります。危険因子が明かなので早期の発見が可能です。シリーズで連載していた慢性肝炎や肝硬変の患者さんの中から発生します。時期は何時とは決められずに発生しますが、感染から25～30年の長い経過の後に発生する例がほとんどです。

しかし、早期に発見されれば局所療法という治療により完治が可能なことも多く恐れることはありません。

肝臓内の検索の一番は腹部エコー検査です。この検査を定期的に行うことが最も大切です。肝機能に異常の無い健康保菌者は6～12ヶ月に1回、慢性肝炎の時期には3～6ヶ月に1回、肝硬変では3～4ヶ月に1回がおすすめです。腹部エコーが有用と述べましたが、肥満した人や腹部の手術を受けた人ではエコー検査で肝臓内が見にくい場合があり、また癌の種類や発生部位によっては超音波検査でも盲点となる場所があります。年に1度は腹部のCT検査やMRI検査の実施がベストです。早期に発見された2～3㎝以下の肝細胞癌では可能なら外科的切除が検討されますが、肝機能が重篤な場合が多く手術は危険を伴います。その場合には局所療法といって局所麻酔下に無水エタノールを局所に注入して癌組織を破壊する治療法やマイクロ波やラジオ波による局所加熱凝固療法が有効です。治療が終わっても再発する例もあるので慎重な経過観察を要し、再発したらまた同じように治療を行います。

また、残念ながら進行した状態で診断された場合でも、以前に比べて治療法が進歩しています。肝細胞癌を栄養する血管（肝動脈）を塞栓物質により閉塞して癌細胞を兵糧責めにするTAE法、肝動脈より癌組織に直接抗癌剤を注入するTAI法があり、稲毛の放射線医学研究所では重粒子線を体外照射する治療法を行っています。

肝硬変から肝癌の発生を予防する方法としてインターフェロンの投与法の改良や新薬の開発など、肝癌の発生機序や治療法に関しては研究が進められており、検査法の進歩による早期発見と相まって肝癌の予後は年々改善していくものと思われます。

文芸

俳句

里寺の安産講やいぬふぐり
靖国の欝金桜や凛と咲く
今関満喜子

みちのくの車窓に眺む遠桜
犬ふぐり散歩の犬に踏まれけり
小林 順子

原木の河津桜や七つ滝
ふるさとの味は酢こんぶ蜷の道
福田 幸子

明眸の瞬きに似て犬ふぐり
咲き誇る一号線の朝桜
戸村 静華

民宿の山盛る椀の浅蜊汁
舞ふ花に風の有りよう知られけり
玉虫たけし

種蒔くや指先加減ねんごろに
花疲れ入る寿司屋の大魚拓
藤代 ゆう

廃屋の荒れたる庭や犬ふぐり
亡妻の笑み語るもありて彼岸かな
今関 茂生

春昼や眠気を誘ふ縁に居て
いぬふぐり予後の散歩も足軽く
若梅あやめ

里川の橋の欄干別れ霜
春昼や障子に光の柔らかく
土屋 栗水

サファイヤを散りばめし如犬ふぐり
うたた寝の今や極楽春の昼
選者 山口 一秋

短歌

寝室の窓辺明るし房花の
黄なるミモザの咲き盛るいま
吉岡 信子

広畑を覆ひ咲きたる菜の花を
黄のさざ波に風は変へゆく
八角 三枝

咲きそめし梅の小枝を飾りたる
卓のあたりも春訪れぬ
永藤 滋

丘のあり谷ある里に住み馴れて
東京に吸ふ色濃き空気
宇井 ちい

咲き盛る桜のあひより見上ぐ空
そこのみ青く澄みて輝く
西山満里子

独り居のさみしさ子等にもらすなく
父はゐましき二十四年を
佐瀬 初音

東京の大空襲に助かりし
命を思ふ折ふし吾は
池田 春江

年おそく始めし短歌師や友に
助けられつつ今に続けり
石井 ユク

黄の色に総の台地の空を染め
春一番はひと日吹きつぐ
鈴木 やす

音高く玄関をあけ隣より
いま搗きたての草餅届く
押尾 輝子

鍬に凭れ衰へしるき我れの影
畑に残し帰り来にけり
萩原 信一

流れゆく疏水に花びら数をまし
桜吹雪の止まるしらず
選者 斎藤つね子